



## 青少年活動センター

日常的な若者との会話の中から相談が始まる特徴です。ユースワーカーが、何でも話せる身近な存在としてさまざまな悩みを聴いています。なかんだかすっきりしないモヤモヤとした気持ちも受け止めます。相談があるから行く場所ではないからこそ、話してくれる若者がいるのだと思います。学校や家・仕事場以外でいろいろな人に会ってみたい、ボランティアをしてみたいという話を聴き、センターのプログラムを紹介したり、社会参加につなげたりすることもあります。若者と社会をつなぐことも大切にしていることのひとつです。

相談によっては、当協会の子ども・若者総合相談窓口や、地域若者サポートステーションと協力しながら一緒に考えます。他団体や専門機関と協力することもあります。

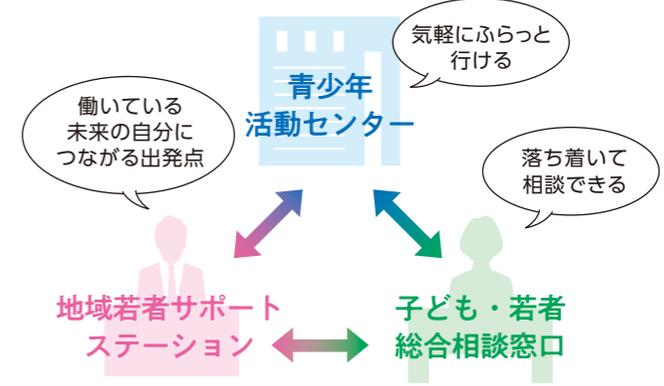
あわせて、児童養護施設等を退所された若者(15〜30歳)の相談にも応じています。

## TOPICS

**相談**  
**できます**

「誰かと話したいなあ」「将来が不安」「働きたいけどどうしたらいいかわからない」「学校に行きたくない」「モヤモヤする」など、若者とかかわる中でいろいろな話を耳にします。私たちは、若者のいろいろな気持ちを受け止め、一緒に考えることを大切にしています。

困った時やちょっと話しを聞いてほしい時、将来が不安になった時に、話ができる場所があることを知って欲しい。そんな思いでこのページでは、当協会の相談事業についてご紹介します。



## 地域若者サポートステーション

地域若者サポートステーション(サポステ)は、無業状態の15〜49歳を対象に、就労支援を実施している厚生労働省委託の支援機関です。当協会は、京都となんたんの2拠点の運営を受託しており、就労に関わる個別相談や各種プログラムを提供しています。

サポステ利用者の多くは、「就労していない」という状態によって、自信が持ちにくくなっていきます。そのため、なかなか次のステップに移れない方や、就活に向けて動き出しにくい方もおられます。そんな方のそばに寄り添い、時として向き合い、どんな人生を歩みたいか、どんな仕事に興味があるか、というところから一緒に歩んでいくのがサポステの就労支援です。

私たちサポステ職員が利用者と一緒に大切にしていくことは2つあります。1つ目は、利用者本人が本来持っている力を発揮できるようサポートすること。2つ目は、無業状態から就労するにあたり「自分で選択して就労に結びついた実感」をつかめるように、サポートすることです。今回は、そんなサポステの就労支援の一部をエピソードとともにご紹介いたします。

## 子ども・若者総合相談窓口



京都市からの委託を受けて、子ども・若者総合相談窓口を運営しています。

京都市内在住の39歳までの若者やそのご家族、および支援者の方々の相談の入り口として、まずは話を聴いて、相談内容の整理や課題を確認し、助言や適切と思われる支援機関の情報提供などを行います。

今年度よりコロナ禍の対策として、オンライン相談も始めました。リラックスして話せるなど、おおむね好評です。

相談内容は、将来のこと、友達のこと、学校のこと、家族のことなど多様です。そして、これら相談の裏側には、様々な課題や問題が絡み合っていると感じます。

お話を丁寧に聴き、紐解きながら、相談者の方と一緒に考えていく姿勢を大切にしています。

特に、紹介することの多い支援機関については、単に情報をお伝えするだけでなく、時に支援機関に直接出向かせていただくなどアンテナを張りながら、雰囲気なども含めて最新の情報をお伝えできるように心がけています。

ただし、現状の相談窓口体制では、難しい相談もあります。窓口相談の性質上、本人やご家族の相談室での語りをもとに助言なども行います。しかしこの語りは、本人の場合、こだわりや過去の経験、固い価値観から生み出されるものがあったり、ご家族の場合、その方の価値観での見立てになり、相談の主である本人が見えなかったりすることもあります。

キャリアの相談

定着支援  
ステップアップ支援

働く  
就職決定  
続けて相談する

「働く」を体験する  
準備する・応募する

自分と職業について考える

### Tさんの場合 (キャリア相談～定着ステップアップ支援の段階)

コロナ禍で内定取り消しとなったTさん。観光業に興味があったけれどもコロナ禍で求人がなくなり、他の職種を探さないといけなくなり、進路に迷っていました。キャリアコンサルタントによる「キャリアの相談」で働くことに関する価値観を明確にする作業を行ないながら、プログラム「自分を知って仕事に就こう」に参加。それが、興味のある仕事に気がつきかけとなり、職場体験を通して自分の働いていく仕事として確信。まずは、アルバイトに応募し、採用されました。働きながら、「ステップアップ支援」を利用し、1ヶ月に1回程度の面談でアドバイスを受けて、情報を集め、半年後には正規雇用として働き始めました。



「自分を知って仕事に就こう」

こころの相談

コミュニケーションと自己表現について体験する

自己理解を深める

### Nさんの場合 (こころの相談の段階)

Nさんは、前職で辛い経験をし、休職、のちに退職されていました。初回の相談で今の状況話し、まずは、臨床心理士による「こころの相談」を利用、過去の経験の整理から始めることにしました。また、プログラム「ワーコミ(ワークとコミュニケーション)」に参加し、働くことの悩みを参加者同士でシェア。そこで、辛かった経験から粘り強さや真面目さという自分の強みを自覚し、「もっと自分にはできることがあるのではないか?」と考えました。その後、他のプログラムにも参加しながら自分のできることをひとつずつ増やしていき、Nさんの強みである粘り強さや真面目さが徐々に発揮されるようになりました。



「ワーコミ」

お2人に共通していることは、「働きたす力」があり、それがサポステでの体験を通して出せるようになったことです。「サポステに相談してみよう」とご連絡をいただくことは、「働きたす」一歩だと思っています。勇気をもって踏み出す一人一人の気持ちを応援します。

どこに相談したらいいかわからない

075-708-5440

子ども・若者総合相談窓口

申込フォーム

ゆっくりと時間をかけて、時には相談期間に得た体験を振り返りながら、本人の価値観を緩めることが必要な場合もあります。

現状の窓口業務では、丁寧に話を聴くという事はできても、「ゆっくり」と「ができません」。このような場合、青少年活動センターとの連携が欠かせません。たとえば、居場所が欲しいという相談者については、センターの事業を紹介し、そこで、センターのワーカーと一緒に体験と振り返りをします。ご相談者の同意を受け、そこでの語りや様子をワーカーから聞きながら、再度アクセスメントを行い、助言や情報提供を行います。

もちろん、これらは青少年活動センターだけでなく、様々な支援機関と行うことが理想です。その支援の輪を広げることで、先述した、丁寧に相談に繋がられるよう意識しています。

相談を希望される方は、お電話もしくはホームページ、QRコードから相談予約が可能です。お気軽にご連絡ください。